

趣味活動である切り紙を再獲得し満足度が増加した症例

門脇 一樹¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション部

[はじめに]脳梗塞発症により軽度右片麻痺を呈した症例に対して、趣味活動である切り紙の再獲得に向けアプローチを行なった。訓練時間に切り紙を行ったことに加え、自室でも行い他者から称賛の声が上がり、趣味活動を再獲得し満足度が増加したため、以下に報告する。

[事例紹介] **症例** 80歳代女性。**現病歴** X年Y月Z日、左頭頂葉脳梗塞で当院急性期病棟入院。Y月Z+10日回復期リハビリテーション病棟へ転床。**障害名** 右片麻痺。**疼痛** 発症時の転倒による打撲で母指に疼痛あり。**既往歴** 両膝 TKA。**病前生活** 夫と二人暮らし。ADL・自宅内 IADL 自立。週3回デイサービス利用。**性格** 明るく社交的。**趣味** 切り紙。12折りにした折り紙に模様を10個程切ることが可能。自宅で毎日行い、他者へ贈与していた。デイサービスでも利用者に教授していた。**Hope** 切り紙を前みたいに行いたい。

[作業療法評価(Z+11日)] **右片麻痺** Br. stage IV - IV - V。**上肢機能** FMA56点。MAL、AOU 平均 0.79、QOM 平均 0.71。STEF 右 58点、左 95点。握力(右/左) 6.2/14.5kg。**高次脳機能** MMSE26点。著明な障害無し。**ADL** FIM79/126点(運動52点、認知27点)。**切り紙** 鋏使用時、切り込みの調整や曲線・複雑な模様を切るなど細かい操作困難。模様は5~6つ程切ることが可能。「前と比べて全くできなくなった。」と落ち込む様子あり。COPM 重要度 9/満足度 3/遂行度 3。(以下 COPM ○/○/○)。

[問題点] 右片麻痺を呈し、病前のような鋏の操作が行えず、自身の満足する切り紙の作成が困難となっている。

[目標] 切り紙を再開し、満足する作品を作成することができる。12折りにした折り紙に切り紙の模様を10個程切ることができる。

[治療プログラム] 右手指の巧緻性訓練、適宜難易度を調整した鋏操作練習、切り紙の実動作練習、自室での自主練習指導。

[介入経過] **初期** 直線・曲線を切る鋏操作練習、鋏の種類検討、切り紙の実動作練習を実施。鋏の細かい操作が困難。道具の貸し出しを行い自室での自主練習を促した。同室者から切り紙への取り組みに対する称賛の声あり。「鋏が上手く使えず思うように

切ることができない」と発言あり。COPM9/3/3。**中期**複雑な形を切る鉗操作練習、切り紙の練習を実施。鉗の細かい操作は改善するも残存。初期で称賛されたことで、同室者に切り紙の方法を教授し、作品を贈与した。作品を称賛される様子あり。1日に作成する切り紙の回数が増加。「最初よりはできるけど、まだまだだね」と発言あり。COPM9/5/5。**終期**複雑な図形を含む切り紙の練習を実施。鉗の細かい操作も可能。朝から意欲的に切り紙を行う様子あり。他患者や病院スタッフに自ら贈与し称賛される様子あり。「手の動かしづらさはまだあるけど、前と同じくらい切ることができるようになった。」と発言あり。COPM9/9/9。

[最終評価 (Z+67日)] **右片麻痺** Br. stage V - V - V。 **上肢機能** FMA63点。MAL、AOU 平均 1.86、QOM 平均 1.64。STEF 右 91点、左 97点。握力(右/左)9.2/13.9kg。**ADL** FIM118/126点 (運動 83点、認知 35点)。**切り紙** 鉗の微調整可能。12折りにした折り紙に模様を9つ程切ることが可能。「ここまで良くなった。こんなに切れるようになった。」と喜々とした様子あり。COPM9/9/9。

[考察] 症例にとって切り紙は重要度が高く毎日行っていた活動であるため、切り紙の再獲得を目指してアプローチを行った。訓練時間に加え、自室での切り紙を促した。その結果、鉗の細かい操作が可能となり、切り紙を再獲得し満足度が増加した。また、経過の中で他者から称賛される機会が多く得られた。

鴻野ら¹⁾は、称賛することは意欲向上や活動性、リハビリ効果向上に有用と述べている。本症例でも初期から他者に称賛されたことで、切り紙の回数が増加し切り紙の再獲得に繋がったと考えられる。また、自身の作品を他者に贈与したことでさらに他者から称賛が増え、切り紙に対する満足度の増加に繋がったと考えられる。

[参考文献]

1) 鴻野隆康、佐々昂典ら. 高齢入院患者に対する称賛への効果. 日本作業療法学会抄録集. 2015; 49: 863.